

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	渋谷区障害者福祉センター代々木の杜		公表日 令和8年2月20日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	3	・活動内容によっては狭いときもあるが、体育館を利用して運動プログラムを行うなどの工夫をしている。	・定期的に体育館を使えるようにし、思い切り運動できる時間を確保していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	5	・曜日によって利用児の発達の状態が様々である時にはグループを分けて活動し、職員も1名プラスで配置するようにしている。	・土曜日は放デイの利用開始時間が全体的に早いため、職員の休憩の取り方が難しい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	・クールダウンや勉強の時に、刺激の少ない個別指導室を使っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	・午前中の療育が終わってから、片づけ、消毒などを行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	・放デイの活動部屋には、個別指導用の部屋が2部屋あり、状況に応じて利用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	5		・業務改善に関する意見の吸い上げを改善策に反映できていない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	・事業所アンケート、3年に一回実施している第三者評価のアンケート、個別支援計画の面談で意見を聞いている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	3	・年2回、人事評価のための面談があり、個別に意見を聴き取っている。全体ミーティングなどで課題や改善策を提案してもらう。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	1	・令和6年度に実施。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	・法人内では、階層別の研修（3年目研修）などを行っている。	・特性や発達のつまずきについて、事業所内で勉強する機会を増やしていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	1	・支援プログラムは、自己評価結果とともに区のホームページに公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0		・児童の発達や障害の特性などを評価し、計画を作成しているが、児童本人の要望を直接聞き取る機会がほとんどない。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	・定期的にケース会議を行い、支援の方法などについて話し合い、共通理解を持つようにしている。	・ケース会議の回数がまだ少ない。グループごとにミニケース会議を開く、研修としてケース検討を行うなども検討していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	2		・日々の支援の中で、担当職員に十分に共有されていないときがある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のならい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	3		・プログラムの作成を担当者で持ち回りにしているが、その内容についてチームで話し合う時間を十分にはとれていない。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	1	・季節の行事や子どもの興味、得意なことなどをプログラムに入れて参加児童がそれぞれに楽しめるように工夫をしている。	・手作りの教材の良さはあるので、準備に時間を取られ過ぎないように工夫していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	1	・集団での活動をメインに据えて、その前後に個々の児童に合った作業などを設定している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	3		・午前と午後の療育の間の時間が少なく、支援の打ち合わせ等に時間をさきにくい。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	6		・休憩や記録時間の確保などから、毎回は振り返りを行うことができていない。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	・活動の記録はプログラムごとに丁寧に記載している。		
23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	1			
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	1			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	9	0	・本人の気持ちや考えをまず聞き、選択肢を提示し、集団との折り合いをつけながら参加できるように、職員は時に個別で対応する。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0		
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0		
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0		・学校の予定等は保護者を通して情報を得ているが、大きなトラブルはない。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	1		
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	2		・小学生のみが利用児となっているので、高校卒業後については対応していない。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	2		
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	6		・利用児や保護者から交流についての要望はない。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	2	・施設長、副主任が子ども部会に参加している。	
	34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	1		・普段の送迎時に、保護者と少しの時間でもコミュニケーションを図ることを意識する。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	1	・小学生低学年のペアレントプログラムを実施し、保護者同士が学齢児の課題を共有できる機会とした。	・学齢児を持つ保護者への研修は児童発達に比べるとかなり少ない。求められているテーマを探っていく。
保護者への説明等	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	1	・契約時に行っている。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0		
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	1		
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	・気になる保護者には職員から積極的に声をかけるようにしている。	
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	7	2	・年2回の療育講座の実施、家族交流会、保護者会や茶話会を行っている。	・きょうだいの交流については、具体的なイベント等を検討していく。 ・父親の会は今年度は実施したが、参加者がやや少なく、放デイの参加が特に少ない。
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0		
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	3	・児童発達支援の連絡帳アプリを放デイでも使い、緊急時の連絡網、保護者会等のお知らせに使っている。	
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0		
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0		
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	4		・事業所の行事は内部で小規模に行う程度であり、地域の施設としての活動はほとんど行っていない。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	1	・引き取り訓練週間を作り、年に一回は必ず行うようにしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	・発作や服薬、持病等については、看護師が保護者から直接聞き取っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	1	・給食やおやつを提供はないため、聞き取りのみ。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0		・ヒヤリハットは次の日には職員全員に周知し、同じヒヤリが起きないように対策しているが、逆に慎重になりすぎるときがある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0		・身体拘束の同意書をとっている利用児はいない。